

あなたの生きて  
こられた時代を  
教えてください



護國神社

兵庫縣姫路護國神社は、天皇皇后両陛下が兵庫県を行幸啓なさいますときに必ず幣饌料をお供えになる姫路で唯一の神社です。

姫路の地理的中心地に鎮座し続けるみやしろは、人々に 日々に国家、国民の安泰を祈る重要な聖域として、また広く人々の心安らぐ鎮守の森として、ご遺族崇敬者共に手を携えて今後もお護りし続けて参りましょう。  
(姫路市本町 鎮座)

しらさぎのみや

# 白鷺宮 護國神社

姫路護國神社は全国に五十二社ある護國神社の一社で姫路城下、姫山の麓にご鎮座しているところから白鷺宮とも親しまれている。

明治元年戊辰の役以来国難に殉じた郷土のご神霊をお祀りし国家鎮護の神として篤い崇敬をあつめこころ。

古来、我が国では「みたま」は、わが家、我が郷土、我が国土に留まって祖神とともに子孫の繁栄を見守り、子孫からの祭りを受け、現世の人達の上を見守っているという信仰があり、これは今日まで受け継がれている祖先崇拜の根底に流れているものと考えられています。

護國神社はこれからも春季・秋季戦没者慰霊祭をはじめ、朝夕の祭りに至るまで、一日も欠かす事なく祭典を厳粛に執り行い、ひたすら祖国の為に尊い一命を捧げられた郷土五万七千柱の「みたま」安かれと祈念致したいと存じます。

# 神社早わかり

神社の数は全国で約八万社あるといわれています

神社信仰の根本は 自然信仰と祖先崇拜 です

人や動物、植物は共生（ともに生きていく）しており互いに助け合い影響しあって生きています。近代的な考え方は自然は征服し従属させるものでした。日本に本来ある考え方は共生です。公害や環境問題を考えるとき、伝統的なこの考え方が有効な手立てとなるでしょう。共に生きていくという考えがあれば、むやみに人を傷つけたり動植物をいじめたりすることはできません。神社には必ず森があります。森のあるところに神社ができたといってもいいでしょう。古来から自然の中に様々な神々がいると信じられていました。自然を神々として敬い、感謝することが神社の信仰の基本です。

また、新しい命は両親がなければ生まれません。またその両親には両親がありました。そうやってたどって行くのご先祖になります。日本の古い神話（古事記・日本書紀）によりますと国土も自然界も生きとし生けるものすべて神々によって生み出されました。その神々も神によって生み出されたのです。西欧では神は創造主ですが日本では親に当たります。したがって神様もご先祖になります。ご先祖があればこそ今あなたは生きていくというわけです。自然と同時にご先祖や尊い偉業を成し遂げた人達を神々として祭りました。

このような基本になる考え方を神道（しんとう）といっています。

# 兵庫縣姫路護國神社(白鷺宮)概要

## (一) ご祭神

戊辰の役(明治元年)以降国難に殉ぜられた兵庫県西部地域(播州、但馬地区二十市十五郡)出身の護国の「みたま」五万六千九百八十八柱命

## (二) 沿革

明治二十六年より兵庫県官民合同にて現鎮座地付近にて**招魂祭**が執行されてきました。が、殉国の「みたま」に常時崇敬報謝の誠を捧げ、ご遺徳を永く追憶しなければならぬとの気運が興り、**兵庫県招魂社造営奉賛会(会長 兵庫県知事)**を組織し、県民挙げてこれに奉賛しました。

内務大臣の創立許可を得て姫路白鷺城の麓の地を下し、昭和十三年四月二十七日竣工、神霊奉鎮の祭儀が執行されました。昭和十四年内務省令に基づき、招魂社は**護國神社**に改称されました。

終戦後昭和二十一年八月二十八日、神社の維持継承をはかるため社名を**白鷺宮**と改称し危機的状况を脱し、サンフランシスコ講和条約発効後、昭和二十九年再び**護國神社**と復称しました。

この間、昭和三十五年より八度にわたって、**天皇后両陛下**より幣帛料および幣饌料を賜りました。

## (三) 主なる祭儀

- 命日祭・朝夕御饌祭(毎日)
  - 月次祭(毎月一日・十五日)
  - 春季慰霊祭(五月二日)
  - 秋季慰霊祭(十一月二日)
  - 新年万燈祭(一月一日より十日)
- その他の祭儀